

SUZUKI

Hamamatsu Marine Maker



最多受賞を誇るスズキの船外機 チャレンジスピリットで 最後発から世界が認める一流メーカーへ

1960年代前半、浜名湖で養殖が盛んな海苔を摘む機械を開発しようと市場調査を行っていた際、船外機に高い需要があることが判明。スズキは船外機の開発に着手し、1965年に最初の「D55」を世に送り出した。これは現存の国内船外機メーカーでは最後発である。だが飛躍的な技術革新を遂げ、現在では144の国と地域で愛用される世界的なメーカーへと成長。1987年、「DT200エグザンテ」でのイノベーションアワード受賞を皮切りに、2017年の「DF350A」にいたるまで、計9回の受賞に輝いている。そのうち8回は4ストローク船外機による受賞であり、これは業界最多を誇る。世界が認めるすばらしい製品を創出し続ける姿には、無難なことに終始せず常に新しいことへ挑戦していくスズキならではのチャレンジスピリットを感じずにはいられない。記念すべき10回目の受賞が待ち遠しい。

※イノベーションアワードとは、NMMA(アメリカマリン工業会)が毎年選定する技術革新賞で、マリン技術界では世界最高の栄誉の1つとされている。

受賞した船外機の数々

1987-DT200 EXANTE	2006-DF300
1997-DF70/60	2011-DF50A/40A
1998-DF50/40	2012-DF300AP
2003-DF250	2014-DF30A/25A
	2017-DF350A



TOPICS

**2018年、大型の新型船外機
「DF325A」を国内で発売開始!
レギュラーガソリン仕様で325馬力を発揮**

コンパクトな新型4ストロークV型6気筒エンジンで排気量は4,390cm³。優れた加速性と直進安定性を実現したスズキ独自の二重反転プロペラや、外部の冷気をエンジン内部に効率的に取り込むシステムを搭載。常にスムーズで確実なシフト操作と、すばやく正確なスロットルコントロールを実現する「電子スロットル」が特長。スポーティーで躍動感のある先進的なスタイリングである。

何事にも果敢に挑戦してみようという進取の気質「やрмаいか精神」が根付く浜松市は、古くからのつくりが盛んなまちとして成長してきた。繊維、オートバイ、楽器といった三大産業を生み出し、世界的企業を輩出。代表としてSUZUKI、HONDA、YAMAHAがあげられるが、各社マリン事業も同様、一流のメーカーとして世界に名を轟かせ、マリン産業を支えている。創業者たちの熱きチャレンジ精神を引継ぎ、国際的に高評価を得る製品を次々と開発。その勢いは今もなお弱まることなく、より優れた技術と製品を追求し続けている。そしてモノづくりにとどまらず、より豊かな暮らしや新しいライフスタイルの提案を世界に発信し、コトづくり、ヒトづくりへと展開している。



SUZUKI

創業者 鈴木道雄氏

1909年 足踏織機の需要の高まりに着目し「鈴木式織機製作所」を設立
1955年 軽自動車として初の「スズライト」を発売

1965年 2ストローク船外機
「D55」を発売



HONDA

創業者 本田宗一郎氏

1946年 自転車用補助エンジンの製造に成功

1947年 A型50ccエンジンを完成

1964年 4ストローク船外機

「GB30」を発売



YAMAHA

創業者 山葉寅楠氏

1887年 オルガンを完成

1900年 国産ピアノ第1号が誕生

1955年 ヤマハ発動機誕生

創業者 川上源一氏

1960年 2ストローク船外機

「P-7」を発売



ものづくりの一流 マリンメーカー

浜松から世界へ名を轟かす